

提出必要書類等一覧

【新市場開拓用米・加工用米①】

取組メニュー	取組内容・取組基準	交付金の交付に当たって提出が必要となる書類等
直播栽培	<p>湛水直播栽培や乾田直播種栽培</p> <p>【取組基準】 育苗作業を省略し、直播に対応した播種機等を用いて種もみを直接ほ場に播種する栽培を行うこと</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式）</p> <p>② 湛水直播栽培，乾田直播種栽培の実施状況が分かる写真（出芽時の田面の写真）</p> <p>③ 湛水直播栽培，乾田直播種栽培に使用した機械本体の写真（全体，型番）</p> <p>④ 【専用アタッチメントを使用している場合】機械本体に取り付ける専用アタッチメント（当該機能を担う部分）の写真（全体，型番）</p>
疎植栽培	<p>地域の慣行栽培（県の栽培技術指針等）における移植密度に比べ密度を低くし，移植に要する苗箱数を減らす取組</p> <p>【取組基準】 疎植に対応した田植機を使用し，苗の移植密度を地域の慣行レベルの80%以下又は50株/坪（115.2株/m<sup>2</sup>）以下とすること ※ 都道府県等の栽培指針等に疎植の基準が示されている場合はこれによること</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式）</p> <p>② 株間にメジャーを当てた写真（4株の株間にメジャーを当てて，66cm以上になっていることが分かる写真）</p> <p>※ 株間22cm以上</p> <div data-bbox="2050 562 2837 730" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【写真のイメージ】</p>  </div>
高密度播種育苗栽培	<p>地域の慣行栽培（県の栽培技術指針等）における育苗密度に比べ密度を高くし，移植に要する苗箱数を減らす取組</p> <p>【取組基準】 慣行栽培（乾籾100～150g（催芽籾125～187g））より育苗密度が高くなるよう，乾籾250～300g（催芽籾312～375g）を播種・育苗し，高密度播種育苗に対応した田植え機を用いて移植すること</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式）</p> <p>② 高密度播種育苗に使用した田植え機本体の写真（全体，型番の写真）</p> <p>③ 【専用アタッチメントを使用している場合】田植え機本体に取り付ける専用アタッチメント（当該機能を担う部分）の写真（全体，型番の写真）</p> <p>※ 乾籾使用量：苗箱1箱当たり250g以上</p>
プール育苗	<p>プールを設置し，プール内に苗箱を置き湛水状態で行う育苗</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式）</p> <p>② プール育苗の実施状況が分かる写真</p>
温湯種子消毒	<p>農薬を使用せず約60℃の温湯に種籾を浸漬し，種子消毒を行う取組</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式）</p> <p>② 温湯種子消毒の実施状況が分かる写真（水温が分かる写真）</p> <p>③ 温湯種子消毒に使用した機械の写真</p>
作期分散	<p>作期の異なる複数品種を作付けし，作期を分散する取組</p> <p>【取組基準】 農業経営体の水稻生産全体の中で，上記の取組を行うこと。必ずしも新市場開拓用米又は加工用米だけで複数品種を作付けし，作期を分散する必要はない。</p>	<p>J A うつのみやの水稲の契約情報と出荷時の検査実績で，事務局が取組状況を確認しますので，作期分散に関する根拠資料の提出は必要ありません。</p>
土壌診断等を踏まえた施肥・土づくり	<p>土壌診断に基づく施肥，有機質資材や土壌改良資材の施用</p> <p>【取組基準】 pH，窒素，リン，カリについて分析を行う土壌診断又は葉緑素計を用いた葉色診断の結果に基づいて，肥料や有機質資材，土壌改良資材を施用すること</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式）</p> <p>② 土壌診断の結果（写し）</p>
効率的な施肥	<p>流し込み施肥，側条施肥</p> <p>【取組基準】 流し込み施肥（※1），側条施肥（※2）のいずれかに取り組むこと ※1 水口に流し込み施肥用の装置を設置し，肥料を灌漑水とともに流し込む ※2 側条施肥に対応した田植機を使用し，移植と同時に株溝の土中にすじ状に肥効調節型肥料を施用する</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式）</p> <p>② 流し込み施肥，側条施肥の実施状況が分かる写真</p> <p>③ 流し込み施肥，側条施肥に使用した機械本体の写真（全体，型番の写真）</p> <p>④ 【専用アタッチメントを使用している場合】機械本体に取り付ける専用アタッチメント（当該機能を担う部分）の写真（全体，型番の写真）</p> <p>⑤ 肥料の購入伝票（写し）</p>

【新市場開拓用米・加工用米②】

取組メニュー	取組内容・取組基準	交付金の交付に当たって提出が必要となる書類等
効率的な農業処理	<p>播種時同時処理，田植え同時処理</p> <p>【取組基準】 播種時同時処理（※1），田植え同時処理（※2）のいずれかに取り組むこと ※1 専用の機械を使用し，播種と同時に農薬を処理する ※2 専用の機械を使用し，移植作業と同時に農薬を処理する</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式） ② 播種時同時処理，田植え同時処理の実施状況が分かる写真（農薬を機械に入れているときの写真） ③ 播種時同時処理，田植え同時処理に使用した機械本体の写真（全体，型番の写真） ④ 【専用アタッチメントを使用している場合】機械本体に取り付ける専用アタッチメント（当該機能を担う部分）の写真（全体，型番の写真） ⑤ 同時処理で登録のある薬剤の購入伝票（写し）</p>
農業機械の共同利用	<p>地域における農業機械の共同利用やシェアリングサービスの活用</p> <p>【取組基準】 農業経営体間で農業機械の共同利用を行うこと又は農業機械のシェアリングサービスを活用すること</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式） ② 農業機械を共同利用した実績が分かる書類（写し）</p>
スマート農業機器の活用	<p>ドローンや水管理システム等の活用</p> <p>【取組基準】 ロボット，AI，IoTなどの先端技術を活用したスマート農業機器・システムを使用すること</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式） ② スマート農業機器・システムの写真（全体，型番） ※ 作業を委託する場合は，委託して取り組んだことが分かる書類（申込書，領収書等）</p>

【表（加工向け）】

取組メニュー	取組内容・取組基準	交付金の交付に当たって提出が必要となる書類等
踏圧	踏圧作業	① 作業日誌（所定の様式） ② 踏圧作業の実施状況が分かる写真（ローラーをけん引している写真）
難防除雑草の薬剤防除	薬剤によるスズメノテッポウ等の防除 <b>【取組基準】</b> 難防除雑草である、ナズナ、スズメノカタビラ、ノミノフスマ、スズメノテッポウ、カズノコグザ、カラスノエンドウ、ヤエムグラ、タデ類、シロザ、スギナ、コヌカグザ、ヨモギについて薬剤防除すること	① 作業日誌（所定の様式） ② 対象雑草名（①作業日誌に記載すること） ③ 薬剤の購入伝票（写し）
生育予測システムを活用した開花時期・収穫期の予測	生育予測システムの活用 <b>【取組基準】</b> 生育予測システムを使用し、開花期・収穫期予測を行うこと	① 作業日誌（所定の様式） ② 生育予測システムを使用し、開花期・収穫期予測を行ったことが分かる書類 ③ 活用した生育予測システムの名称（①作業日誌に記載すること）
効率的・効果的な施肥	追肥重点施肥（開花期以降の追肥）の実施 <b>【取組基準】</b> 追肥重点施肥（※）に取り組むこと ※ 基肥施用量を減らし、開花期（茎立期）の追肥を増やすことで肥効の向上に取り組むこと	① 作業日誌（所定の様式） ② 追肥重点施肥の実施状況が分かる写真
重要病害虫の防除	赤カビ病，うどんこ病，赤さび病の防除	① 作業日誌（所定の様式） ② 対象病害虫名（①作業日誌に記載すること） ③ 農薬の購入伝票（写し） （J A委託の場合は事務局がJ Aに農薬名を確認するため，③は必要なし）
排水対策管理	額縁明渠等の点検・修繕 <b>【取組基準】</b> 額縁明渠，集水升，排水口，排水路の点検や修繕を計画に基づいて行うこと	① 作業日誌（所定の様式） ② 額縁明渠，集水升，排水口，排水路の点検や修繕の実施状況が分かる写真
農業機械の共同利用	地域における農業機械の共同利用やシェアリングサービスの活用 <b>【取組基準】</b> 農業経営体間で農業機械の共同利用を行うこと又は農業機械のシェアリングサービスを活用すること	① 作業日誌（所定の様式） ② 農業機械を共同利用した実績が分かる書類（写し）
スマート農業機器の活用	ドローンや水管理システム等の活用 <b>【取組基準】</b> ロボット，A I，I o Tなどの先端技術を活用したスマート農業機器・システムを使用すること	① 作業日誌（所定の様式） ② スマート農業機器・システムの写真（全体，型番） ※ 作業を委託する場合は，委託して取り組んだことが分かる書類（申込書，領収書等）

【大豆（加工向け）】

取組メニュー	取組内容・取組基準	交付金の交付に当たって提出が必要となる書類等
大豆300A技術等の生産性向上技術	<p>研究機関が開発した大豆300A技術及びそれに類する播種技術の実施</p> <p><b>【取組基準】</b> 300A技術やそれに類する畝立て播種や狭畦密植栽培といった生産性の向上につながる播種技術に取り組むこと</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式）</p> <p>② 300A技術やそれに類する畝立て播種や狭畦密植栽培の実施状況が分かる写真</p> <p>③ 使用した機械本体の写真（全体、型番の写真）</p> <p>④ <b>【専用アタッチメントを使用している場合】</b>機械本体に取り付ける専用アタッチメント（当該機能を担う部分）の写真（全体、型番の写真）</p>
難防除雑草の薬剤防除	<p>薬剤による帰化アサガオ類やアレチウリ等の防除</p> <p><b>【取組基準】</b> 難防除雑草の、帰化アサガオ類、アレチウリ、ヒロハフウリンホオズキ、カロライナツユクサ、イヌホオズキ、オオブタクサ、ニシキアオイを防除すること</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式）</p> <p>② 対象雑草名（①作業日誌に記載すること）</p> <p>③ 薬剤の購入伝票（写し）</p>
新品種の導入	<p>単収の高位安定化等に資する新品種の作付</p> <p><b>【取組基準】</b> 平成20年度以降に育成された単収の高位安定化に資する品種を新たに作付すること</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式）</p> <p>② 種子の購入伝票（写し）</p>
排水対策	<p>心土破碎，弾丸暗渠，有材補助暗渠，無材穿孔暗渠，深耕，額縁明渠</p> <p><b>【取組基準】</b> 上記の排水対策のうち，土壌条件に合った対策に取り組むこと</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式）</p> <p>② 心土破碎，弾丸暗渠，有材補助暗渠，無材穿孔暗渠，深耕，額縁明渠の実施状況が分かる写真</p>
スマート農業機器の活用	<p>ドローンや水管理システム等の活用</p> <p><b>【取組基準】</b> ロボット，AI，IoTなどの先端技術を活用したスマート農業機器・システムを使用すること</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式）</p> <p>② スマート農業機器・システムの写真（全体、型番）</p> <p>※ 作業を委託する場合は，委託して取り組んだことが分かる書類（申込書，領収書等）</p>

【高収益作物（加工・業務）】

取組メニュー	取組内容・取組基準	交付金の交付に当たって提出が必要となる書類等
農薬によらない病害虫対策	<p>LEDトラップや防虫ネットの設置，耕種的防除等の取組</p> <p><b>【取組基準】</b> LEDトラップ，フェロモントラップ，防虫ネット，誘蛾灯，光反射シート，紫外線カットフィルム，粘着板の設置や，病害虫抵抗性品種の利用や病害虫の発生源となる雑草の防除，病斑部の除去等の耕種的防除のうち，いずれかに取り組むこと</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式）</p> <p>② 農薬によらない病害虫対策を実施状況が分かる写真</p> <p>③ 【使用した道具・機械等がある場合】使用した道具・機械等の写真</p>
農薬のドリフト対策	<p>ドリフト低減ノズルや遮蔽物等の利用</p> <p><b>【取組基準】</b> ドリフト低減ノズルやドリフト低減型防除機の利用，ネットや被覆資材の利用等，『農薬飛散対策技術マニュアル(消費・安全局植物防疫課)』に記載の取組を行うこと (参考) 農薬飛散対策技術マニュアル <a href="http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/g_nouyaku/manual/pdf/all.pdf">http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/g_nouyaku/manual/pdf/all.pdf</a></p>	<p>① 作業日誌（所定の様式）</p> <p>② 農薬のドリフト対策の実施状況が分かる写真</p> <p>③ 使用したドリフト低減ノズルや遮蔽物等の写真</p>
化学肥料の使用量 30%以上削減	<p>堆肥利用等により，化学肥料の使用量の30%以上削減</p> <p><b>【取組基準】</b> 化学肥料の使用量を地域の慣行レベルと比べて30%以上削減すること</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式）</p> <p>② 使用した肥料の商品名，肥料に含まれる窒素分量，10a当たりの肥料使用量の記録簿（①作業日誌に記載すること）</p> <p>③ 肥料の購入伝票（写し）</p>
化学農薬の使用量 50%以上削減	<p>総合的な防除体系の確立等により，化学農薬の使用量の50%以上削減</p> <p><b>【取組基準】</b> 化学農薬の使用量を地域の慣行レベルと比べて50%以上削減すること</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式）</p> <p>② 使用した農薬の商品名，10a当たりの使用量の記録簿（①作業日誌に記載すること）</p> <p>③ 肥料の購入伝票（写し）</p> <p>※ 農薬を使用していない場合は，その旨を作業日誌に記載すること</p>
土壌診断等を踏まえた施肥・土づくり	<p>土壌診断等に基づく施肥，有機質資材や土壌改良資材の施用</p> <p><b>【取組基準】</b> pH，窒素，リン酸，カリについて分析を行い，土壌診断の結果に基づいた肥料や有機質資材，土壌改良資材の施用又は緑肥作物を作付すること</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式）</p> <p>② 土壌診断の結果（写し）</p> <p>③ 【緑肥作物を作付けした場合】緑肥作物の作付状況が分かる写真</p>
排水対策管理	<p>心土破碎，弾丸暗渠，有材補助暗渠，無材穿孔暗渠，深耕，額縁明渠</p> <p><b>【取組基準】</b> 上記の排水対策のうち，土壌条件に合った対策に取り組むこと</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式）</p> <p>② 心土破碎，弾丸暗渠，有材補助暗渠，無材穿孔暗渠，深耕，額縁明渠の実施状況が分かる写真（心土破碎，弾丸暗渠，有材補助暗渠，無材穿孔暗渠，深耕，額縁明渠をする機械全体の写真）</p>
農業機械の共同利用	<p>地域における農業機械の共同利用やシェアリングサービスの活用</p> <p><b>【取組基準】</b> 農業経営体間で農業機械の共同利用を行うこと又は農業機械のシェアリングサービスを活用すること</p>	<p>① 作業日誌（所定の様式）</p> <p>② 農業機械を共同利用した実績が分かる書類（写し）</p>